

# 瑞浪市立小中学校 熱中症対策ガイドライン

令和6年6月版 瑞浪市教育委員会

★市内小中学校にあつては、本ガイドラインに示す内容を基に熱中症対策を実施します。併せて、岐阜県熱中症ガイドライン（令和6年5月20日改訂版）を参照し、対応します。

暑さ指数（WBGT）と学校の対応	
暑さ指数（WBGT） 乾球温度（目安）	学校生活を安全に過ごすための指針 ※熱中症予防のための運動指針（（公財）日本スポーツ協会）参照
WBGT 33℃以上 熱中症警戒アラート	<b>【運動の中止・児童生徒の留め置き】</b> 下校時に各学校の運動場における暑さ指数が33℃以上の場合、児童生徒を学校に留め置き、暑さ指数が下がってから下校とする。 ※「熱中症警戒アラート」の発表状況を参照する。
WBGT 31℃～33℃ 乾球温度 35℃以上 危険	<b>【運動は原則中止】</b> 体育などの運動は原則中止。 ※1 屋外や体育館での活動は、中止又は活動内容の変更。 ※2 プールについては、「各小中学校の熱中症対策について」ならびに「プール学習時の熱中症対策」を参照
WBGT 28～31℃ 乾球温度 31～35℃ 嚴重警戒	<b>【活動時間の短縮】</b> 活動時間の短縮。（激しい運動や持久走など体温が上昇しやすい運動は中止。） 健康チェックや水分（塩分）補給など健康管理を徹底。練習内容、場所、時間、服装などに配慮した上で活動。 肥満や体力等個人の条件、体調を考慮し、運動を軽減、中止。
WBGT 25～28℃ 乾球温度 28～31℃ 警戒	<b>【積極的に休息】</b> 積極的に休息をとる。激しい運動の場合は、30分おきに1回以上の休息をとるとともに、水分（塩分）を補給する。
WBGT 21～25℃ 乾球温度 24～28℃ 注意	<b>【積極的に水分補給】</b> 熱中症の兆候に注意。運動の合間に積極的に水分補給。
WBGT 21℃未満 乾球温度 24℃未満 ほぼ安全	<b>【適宜水分補給】</b> 通常は熱中症の危険は小さいが、適宜水分補給を行う。

※1 「熱中症警戒アラート」が発表されている場合は、発表状況を確認の上、対応します。

※2 校外学習、町探検、理科の観察、農業体験、写生、集会、など暑さ指数（WBGT）は、温度や湿度などの複数の環境要素を合わせて測定しているため、場所や時間により、値が変動します。活動場所ごと、活動時間ごとに測定することが大切です。

**熱中症警戒アラートの予測と対応** **運動・野外活動は、WBGT 31℃以上＝原則中止！**  
 ※地域や学校の実情に応じて熱中症警戒アラートの対処方法を調整

<b>【放課後】</b> ①翌日の気象情報の入手（管理職） ・環境省熱中症予防情報サイト ・テレビ、ネット等	高温予想！ ②全職員に周知（管理職）	③翌日の対応を検討 ・教室授業 ・体育 ・行事 ・部活動 ・登下校 等 <b>★全職員で共通理解</b>	<b>【翌日朝】</b> ④気象情報の入手（管理職）	WBGT 上昇アラート発表 ⑤全職員に周知（管理職）	⑥対応
必要に応じて保護者連絡					

<b>【対応上の留意点】</b> ・急に暑くなった日や諸活動の初日などは特に注意 ・異常を感じたらすぐに休ませて体を冷やし、水分・塩分補給 ・救急車要請の対象（「呼びかけの返答に違和感」「意識がない」「自力で水分補給できない」） ・暑さ負債＋水分不足＝隠れ熱中症（疲れや乳酸の蓄積による）	<b>【見届けのポイント】</b> ①足の動きや運び ②目の焦点 ③簡単な問いかけ（質問）への反応
--	--

**基本対応** **アラートが発表されていなくても WBGT を把握し、対応を決定**  
 ※朝の測定以降は毎日のルーティン

<b>【朝】</b> WBGT の測定場所（校庭）担当（〇〇） <b>記録を取る</b>	<b>【朝の会前】</b> 指針に基づき授業等の対応を決定（授業、体育・部活動、行事）→内容・時間変更、延期・中止 <b>★全職員で共通理解</b>	<b>【授業・活動前】</b> WBGT の測定場所（活動場所）担当（担任・教科担・顧問） <b>記録を取る</b>	<b>【活動中】</b> 指針に基づき授業等の内容を柔軟に変更 担当（同左）	<b>【下校時】</b> 下校時の対応を児童生徒に指導 担当（同左）
必要に応じて保護者連絡		活動前・中の WBGT 測定とその変化に注意		

<b>職員研修</b>	熱中症対策要旨・本ガイドライン・プール対応・熱中症対応フロー等の確認 ※日本スポーツ振興センター作成の動画・テキスト「熱中症を予防しよう～知って防ごう熱中症～」等も活用ください。 ★暑さが本格的になる前の実施が望ましい。
-------------	--

**対応にあたり教訓とする事例**

<b>教訓①：熱中症を引き起こす3要因（環境・身体・行動）</b> 【事例① アメリカンフットボール部での部活動中に起きた事故】 8月、高校3年男子がアメリカンフットボール部の部活動で9:30から練習試合にフル出場（行動）11:20、第4クォーター終了直前にベンチで倒れ、意識なし。2日後に死亡した。気温 32℃、湿度 61%（環境）であり、被害者本人は身長 170 cm、体重 113 kg、肥満度 77%（身体）であった。 <b>教訓②：それほど気温が高なくても湿度が高い日は注意！</b> 【事例② 宿泊学習で起きた事故】 7月、中学2年生の男子が宿泊学習で登山中（行動）に熱中症になり、死亡した。当日は気温 27.2℃、湿度 70%（環境）であった。（事故現場近隣の気象庁データによる） <b>教訓③：激しい運動でなくても、暑さ指数が高い日、特に小学校低学年で注意！</b> 【事例③ 校外学習で起きた事故】 7月、小学校1年生（身体）の男子が学校から約1km離れた公園での校外学習後に教室で様子が急変し、意識不明になり、救急搬送される事故が発生した。当該生徒は搬送先の病院において死亡した。*午前10時の状況：気温 32.9℃ 暑さ指数（WBGT）32（環境）で「危険」
--

